

天皇杯全日本レスリング 田中3年連続日本の頂点に アテネ五輪代表の座に期待

天皇杯全日本レスリング選手権大会が12月21、22日、代々木第2体育館で行われ、男子フリースタイル120kg級で田中章仁(経済3・三井高)が優勝し、3年連続で日本の頂点に立った。

決勝戦の相手は前回と同じ諏訪間幸平選手(クリナップ所属)。終盤まで1ポイントを争う接戦となったが、終了間際に連続で得点し、4-0で完封した。

「最後まで自分が主導権を握って、うまく試合を運ぶことが出来た。楽に勝たせてもらったという感じです」と、最高の形で一年を締めくくった田中。「今年はオリンピックイヤー。まずは代表として出場出来るように頑張りたい」という言葉の通り、世界へと羽ばたくことを信じている。(高橋 伸明・文2)

【ニュース専修1月号16面】

決勝リーグ進出 初の準決勝!! 長南・3冠 川村・優秀賞

女子・全日本学生バスケットボール



▲的確なプレーコールでチームを引っ張った本橋綾沙(経営4)



▲白澤主将のドライブインからのレイアップ

女子の第50回全日本学生バスケットボール選手権記念大会が12月8日から14日まで、代々木第2体育館ほかで行われ、専大は準優勝を遂げた。

個人では、長南真由美(経営3・山形市立商高)がディフェンス王、敢闘賞、一般投票によって選ばれるMIP賞を、川村良子(文3・東京成徳大付高)が優秀賞を獲得。

秋季リーグ戦で初めて関東を制し、優勝候補の一角として臨んだ今大会。トーナメント方式のブロック予選を順調に勝ち上がり、創部以来初となる決勝リーグ進出を難なく決めた。この勢いは決勝リーグでも衰えず、1戦目の鹿屋体大戦では、得意の速いパスワークで終始圧倒し、89-61で快勝。

2戦目の大阪人科大戦は、第4Q残り30秒で同点とされ延長戦にもつれ込むが、総合力で相手を上回り、60-56で無敗を守った。

最終戦は学生日本一の座を賭け、同じく全勝の日体大と対戦。序盤は互角の戦いを見せ、前半を同点で折り返す。しかし、児玉茂監督が「前日の延長戦が影響した」と言うように、後半に入ると選手たちの足が止まり、徐々に失点を重ねていく。必死に反撃するものの、逆転には至らず、66-79で敗れた。

白澤幸佳主将(商4・明星学園高)は「結果は悔しいが、このメンバーとプレー出来て良かった」と語り、児玉監督は「貴重な経験になった」と話した。

敗戦から得るものは時として勝利から得るものより大きい。これをバネに、専大バスケット部は更に大きく成長していこう。(久我 智也・文1)

男子は連覇ならず

男子の第55回全日本学生選抜選手権記念大会が12月8日から14日まで、代々木第2体育館ほかで行われた。連覇の期待がかかった専大だが、7位という結果に新関光一監督は「プレーへの集中を欠いた」と大会を振り返った。来季は気持ちのコントロールも課題だ。目指すは王座奪回だ。(田頭 美和子・文2)

【ニュース専修1月号16面】

女子・善戦も及ばず 男子・主力欠き苦杯 全日本総合バスケットボール

女子全日本総合バスケットボール選手権が12月28日から1月4日まで代々木第2体育館ほかで行われ、専大は2回戦敗退となった。

12月の全日本学生選手権で2位となり、今大会の出場権を得た専大。1回戦・秋田銀行戦は69-61で勝利したが、2回戦でJWBL所属の日本航空に69-80で敗れた。しかし、児玉監督が「善戦と言って良い」と語ったように、来季に向けて期待を抱かせてくれるバスケを見せてくれた。

また、男子の全日本総合選手権が、1月2日から12日まで代々木第2体育館ほかで行われ、専大は1回戦でJBL所属のオーエスジーに67-85で敗れた。

全日本選手権で7位入賞を果たしての出場だったが、ケガなどで主力を欠いての敗戦に「万全なチーム状態で臨めなかったことが悔やまれる」と新関監督はコメントした。
(久我 智也・文1)

【ニュース専修1月号16面】

男子 大宮、小淵 女子 川村、岩崎 が出場 実業団vs学生オールスター バスケッ ト

バスケットボールの第6回関東実業団・関東学生オールスター対抗戦が12月20日、千葉県
の浦安市運動公園総合体育館で行われた。男子は大宮宏正(経済2・作新学院
高)、小淵雅(経営2・太田工高)、女子は川村良子(文3・東京成徳大付高)、岩崎真歩
(経営2・実践学園高)が出場。はつらつとしたプレーを見せた。

男子は101-89で、女子は98-60でともに学生選抜が勝利した。

【ニュース専修1月号16面】

男女ともに健闘 福田フルーレ個人準優勝 全日本フェンシング選手権



▲大活躍の福田主将

全日本フェンシング選手権が、12月12日から15日まで埼玉県・蓮田市総合市民体育館で行われた。

男子は団体サーブルで2位、同フルーレで4位。個人では福田佑輔主将(経済4・東亜学園高)がフルーレで2位と健闘した。

女子は団体サーブルで3位、同フルーレで4位。個人ではサーブルで内藤絵理奈(商4・武生商高)が3位、萩祥子(文3・大分豊府高)が7位入賞を果たした。

男子個人フルーレ決勝。福田は和歌山クラブ・森と対戦。終盤、8-14の劣勢から持ち前の粘り強さを見せ、12-14まで追い上げるが、惜しくも後一步のところまで追い付かなかった。優勝は逃したものの、最後まで見ごたえのある試合に「調子が悪いわりにはそこそこの試合が出来た。団体では後輩が頑張ってくれたので良かった」と語った。

新年を迎え、今年も専大フェンシング部の活躍に期待がもてる。(矢口 蘭・文1)

【ニュース専修1月号16面】